

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2024 年 11 月

第 127 号

主な予定

2024 年 10 月 20 日（日）「きのこ観察会」

川瀬 美幸

11 月 13 日（水）

9:45～11:00

渡里湧水群を活かす会

11 月 15 日（金）

9:20～10:20

史跡巡り

11 月 17 日（日）

14:00～16:00

柏市環境フェスタ

11 月 24 日（日）

13:00～15:30

ワークショップイベント

於：管理棟周辺

12 月 22 日（日）

13:00～15:30

忘年会

於：管理棟周辺

- 実施時間：午前 10 時～正午まで
- 当日の天気： 午前 10 時ごろ 17℃ 風速 北東 2.4m/s
- 講師：A 班 小泉敏彦先生 B 班 中島淳志先生
- 参加者： 一般 28 名（大人 15 名 子ども 13 名）
- NPO こんぶくろ池自然の森 22 名 大学院生 3 名

今年は 10 月になっても気温が 30 度を超える日があり、観察会前日も都内で 30 度を超えて気象庁の観測史上最も遅い真夏日を記録した。

やはり一番気になるのが天気。観察会当日は予報通りガラッと空気が入れ替わって朝は一気に 15 度近くになり寒さを心配するほどだった。

また、今年特に心配したのは、ナラ枯れの被害木からの落枝と暑い日が続いたことでオオスズメバチがかなり活発に活動をしていた事だった。数日前の下見では樹液に群がるオオスズメバチを確認したので、急遽観察ルートを短縮して AB 班ともに観察場所から引き返すこととした。園路ぎわの落枝が心配される場所では迂回ルートを作り、活動日に NPO で草刈りを行い分かりやすいように目印を設置した。

短縮コースにしたことで、時間的にも余裕ができて小さいお子さんにも無理のないペースで観察することができたと思う。

今年は小学生低学年や未就学児のお子さんも多く参加してくれた。小さいながらも一生懸命にきのこを探し、講師の話を熱心に聞いている姿が印象的だった。

小さい子がなぜきのこが好きなのか私にはよくわからないけど、形や感触、匂いなど、きのこには人の五感に直接訴えかける要素がたくさんあるので、感覚が鋭い幼少期の子どもは何かしら感じるものがあるのでは？と思ったりしている。

観察会後のアンケートでは「きのこの見た目が好き」という人が多かった。それに続き「生き方や暮らし方に興味がある」という回答を

いただいた。こんぶくろでは、きのこのそのものを観察するだけではなく、「森の中での暮らし方、他の生きものとのかかわり」を観察して欲しいので、趣旨が参加者に伝わっていて嬉しかった。

今回、菌類を研究する東京大学大学院生 3 人が参加して、観察ルートでの安全確認や採取時の補助などをしていただいた。皆さん、きのこの好きな方で観察会終了後も森に入り B 班講師の中島さんに硬いきのこの探し方のコツを教えてもらっていた。

また、A 班講師の小泉さんのご協力により、採取したきのこの DNA 解析を今年初めて実施することになった。きのこは見た目で分類するのがとても難しく、報告書では〇〇属、〇〇の仲間、という記載も多かったが、遺伝子を解析することで種名まではっきりと確定することができるかもしれない。DNA サンプル採取作業は大学院生 3 人 + 観察会後駆け付けた大学生 1 人に手伝ってもらった。

8、9 月の暑い時期にはきのこの発生は少なくとても心配したが、テングタケ科やベニタケ科のきのこが少し涼しくなったタイミングで出てくれたので良かった。人と同じできのこも暑い時期の活動が苦手なのだろうか？

今年も参加者の皆さんと丁寧に探すことで、たくさんのきのこに出会うことができた。

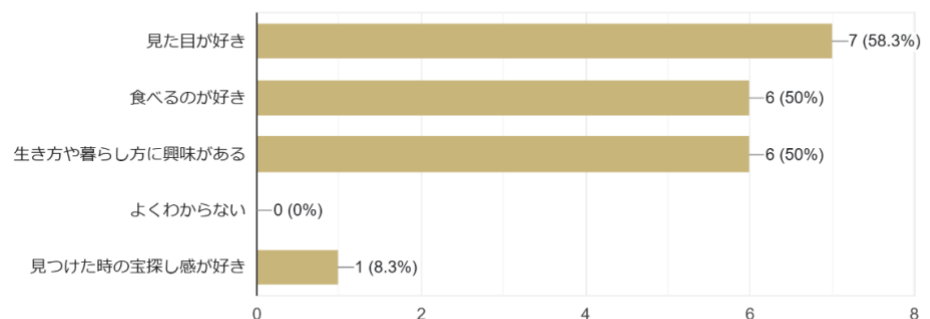
また、観察会の運営では NPO 会員が事前の草刈りや園路下見、当日の受付や安全確認や誘導、会場設営など作業を分担してスムーズにご案内することができたと思う。

観察会後のアンケートでは「スタッフの皆様が笑顔で優しくありがとうございました」との感想が寄せられた。

以下、アンケートを一部抜粋

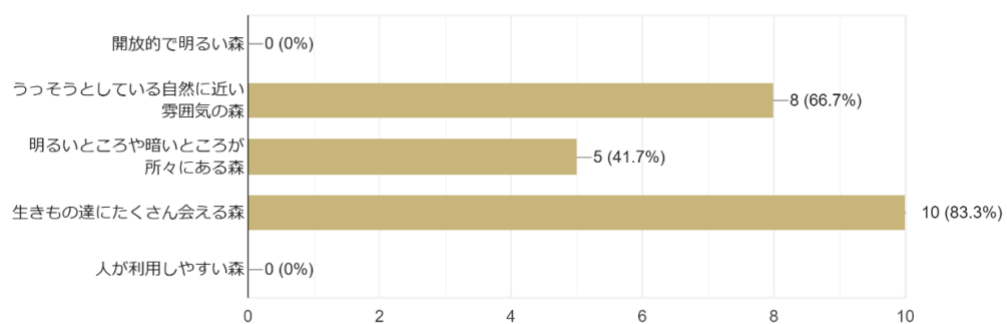
あなたにとって、きのこの魅力は？

12 件の回答



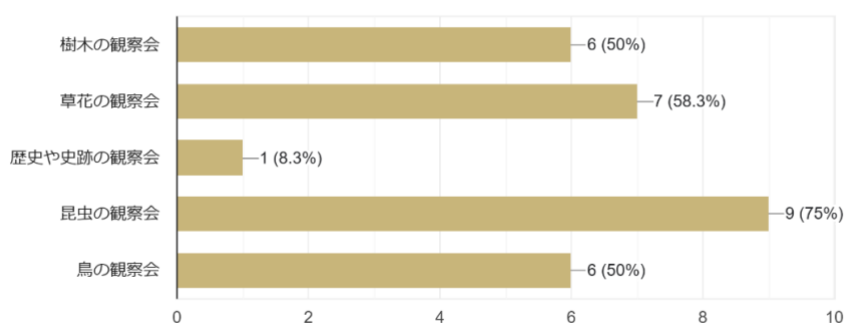
こんぶくろ池の森がどんな森だと嬉しいですか？

12件の回答



こんぶくろ池で参加してみたい観察会は？

12件の回答



A 班：小泉先生



B 班：中島先生





コブシの実の不思議

橋本谷 弘司



立派なコブシの樹

コブシの漢名は「辛夷（しんい）」として知られていますが、植物学者・牧野富太郎は中国にない植物であるコブシに漢名があるのは、おかしいと言われています。

コブシはモクレン科モクレン属に分類されています。中国原産の落葉低木のモクレンはモクレン科モクレン属とコブシと同じ仲間、「木欄（もくらん）」と書きますが、実際の「木蘭」は常緑の高木で和名がなくモクレンとは違う樹のようです。モクレンの漢名は「辛夷」であると述べられています。

山と溪谷社の図鑑「樹に咲く花」でコブシの名前の由来の項で「集合果が握りこぶしに似ていることによる。ふつう辛夷と書いているが、これは中国の別の植物の名前を誤用したもの。」と記載されていますが、この図鑑でもコブシの漢名として辛夷と記しています。一度定着した名前を変えたり、削除することは困難のようです。

日本の学問は中国、続いて西洋から輸入された学説を基礎に発展してきましたので植物学でも、日本に産する植物はすべて中国にあるものと考えられてきましたが、日本には中国にない特産の植物があると、江戸前期の本草家・儒学者である貝原益軒が自著の「大和本草」（1709年）で指摘したのが始めてでした。

当園にはコブシは30本以上ありますが、一番大きな樹はワタラセツリフネソウエリアの公道に接しているもので幹周は240cm余りあります。一般的に胸高（1.3m）の位置での幹周が300cm以上のもの



早春に咲くコブシの花

を巨木と呼んでいますので巨木とは言えませんが立派な樹であることには変わりありません。

当 NPO 会員の方からコブシの赤い実が白い糸で吊り下がっているのを知っていますかと聞かれました。コブシの赤い実は何となく見たことがあります着目して見ていませんので、時期の到来を待って観察しました。

確かに、白い糸で吊り下がっているのを見つけました。私の見た範囲では多くの実がそのようになっているのではなく、そのような物もあると言う感じでした。白い糸で吊下がついているものと、そうで無いものの違いはなんなのかと考えていました。

ある図鑑には、「熟すと覆っている皮が破れて赤い実が露出し、白糸で吊り下がります」と記されていますが、最近見た相模原市立博物館の職員ブログには、「コブシの赤い果実をゆっくりと鞘から引き出します。白い糸のようなものが鞘とつながっていることがわかります。熟したからと言って、自然にこのようにぶら下がるのは見たことがありません。」と書かれていました。

私の見たものは人の手が加わっていたものだったかもしれません。



コブシの集合果



白い糸で吊下がつたコブシの実

10 月理事会

(日時) 2024 年 10 月 27 日 (日) 13:00～15:00
 (場所) 管理棟
 (出席者) 議長 (理事長): 萩原
 出席者 (理事) 中川・上田・徳永 (書記)
 (会計) 山上・(顧問) 岡本・(提案者) 海野

1. 審議検討・確認事項

- (1) (11/3)「市民活動フェスタ in 柏の葉」への準備状況について
 - ・ 当日の展示物や運営 (要員配置 (11:00～16:00)・持ち物・搬入及び搬出) 他について最終確認を実施した

- ・ 当日要員は 7 名、常時 5 名体制でシフト組み済み
- (2) (11/24)「森のクラフトワークショップ」の準備状況について
 - ・ チラシ 200 部印刷、配布済み
 - ・ 製作物は①どんぐりクラフト・②どんぐりストラップ・③葉っぱスタンプの 3 種類
 - ・ 材料の確認や準備を進めることを確認した
 - ・ 当日要員は 10 数名確保済み、引き続き声掛けをする
 - ・ 参加費は、年齢に関わらず“参加”される方 1 人につき 300 円
- (3) 今年度の上半期収支について
 - ・ 2024 前期試算の情報を共有した
- (4) 今後の植生管理について
 - ・ ワタラセツリフネソウの開花を促す方策について、3 月から初夏までの間に最低 2 回、各回少人数にて、ワラビ、セイタカアワダチソウ、ツル性の植物などを除去することを確認した
 - ・ 林床下草の現状について、機械によるササ刈りが必要な区域について情報を共有した
 - ・ 機械が入れない場所、また幼木が生えている周辺は印をつけ、手刈りを行う旨も確認した
- (5) スズメバチの巣発見時ルールの妥当性について
 - ・ 当 NPO 活動は自然が相手なので、昨年決めた方針は絶対ではなく、臨機応変な対応をするケースもあるだろうが、その場合にも“きちんとした根拠”が必要ではないか？
 - ・ 改めて、昨年作成した「スズメバチの巣への対応ルール」に則り対応することを確認した
- (6) リーフレットの次回発注について
 - ・ 2023 年 5 月に 5,000 部発注したリーフレットの 10/19 時点の残は 1,800 部。2023/6～2024/10 の 17 ヶ月で 3,400～3,500 部使用（約 200 部／月）
 - ・ 今年度中の発注が必要。リーフレットのサイズ及び内容の縮小の簡略版作成も視野に入れ、先ずは NPO にてデザイン変更可能か確認し、その結果を踏まえて継続検討
- (7) (10/27(日)、11/2(土)、11/17(日))「里山の保全活動体験会」の実施状況について
 - ・ 10/23 現在 6 名の申し込みあり
 - ・ 本日(10/27)3 名が活動体験に参加され、うち 1 名が入会された
- (8) 11～12 月活動計画
 - ・ 情報を共有した
- (9) 11 月の通信記事
 - ・ 情報を共有した